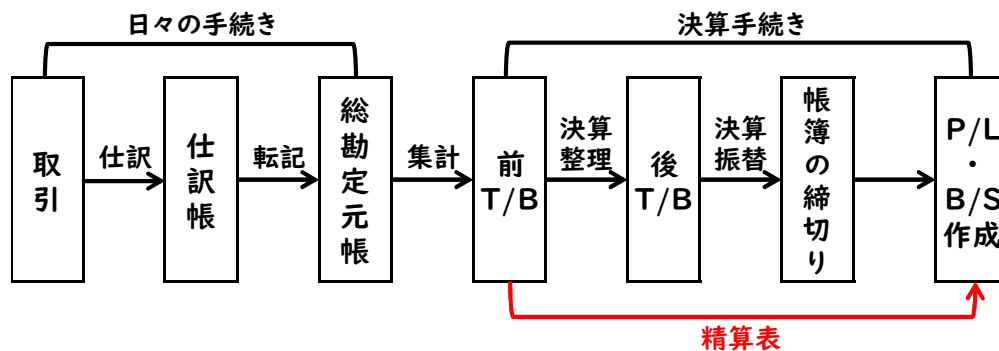


精算表とは（表の見方と記入手順）

・精算表とは、決算整理前残高試算表に、決算整理仕訳における（ ）を反映させて、（ ）と（ ）を作る過程を一覧表としてまとめたものをいう。

・精算表作成までの過程



・精算表の一般的な問題の流れは、「決算整理前残高試算表」が記入してある状態からスタートして、問題として問われる「決算整理事項」を仕訳して、各項目を埋めていく流れとなる。

●決算整理事項の問題例●

1. 備品¥15,000 について、定額法による減価償却を行う。
(残存価額ゼロ、耐用年数5年)

↓ 決算整理仕訳

(減価償却費) 3,000 (備品減価償却累計額) 3,000

・精算表の形と記入項目等

(単位:円)

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	5,000							
売掛金	7,000							
繰越商品	3,000							
備品	15,000							
買掛金		5,800						
貸倒引当金		200						
備品減価償却累計額		3,000						
資本金		15,000						
繰越利益剰余金		3,000						
売上		20,000						
仕入	14,600							
保険料	2,400							
	47,000	47,000						
貸倒引当金繰入								
減価償却費								
前払保険料								
当期純利益								

・上記の精算表は「8桁精算表」といい、最も一般的なものである。他には、修正記入の欄がない「6桁精算表」、決算整理後残高試算表の欄が追加された「10桁精算表」があるが、問題で問われるのは「8桁精算表」がほとんどである。

- ・「決算整理事項」を仕訳した結果、下記のような結果になったとして右記の精算表を埋めていくと…。

・【決算整理仕訳】

(仕入)	3,000	(繰越商品)	3,000
(繰越商品)	2,000	(仕入)	2,000

(貸倒引当金繰入)	10	(貸倒引当金)	10
-----------	----	---------	----

(減価償却費)	3,000	(備品減価償却累計額)	3,000
---------	-------	-------------	-------

(前払保険料)	1,200	(保険料)	1,200
---------	-------	-------	-------

○ポイント○

精算表の作成自体は、「損益計算書の勘定科目」「貸借対照表の勘定科目」を分けることができれば全く難しいことはない。重要なのはいかに「決算整理事項」の仕訳をミスなく処理できるかがカギとなる。

- ・当期純利益もしくは当期純損失の金額は、「貸借差額」で最後に求めること。

精算表

×1年3月31日

(単位:円)

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	5,000						5,000	
売掛金	7,000		+	-			7,000	
繰越商品	3,000		2,000	3,000			2,000	
備品	15,000						15,000	
買掛金		5,800						5,800
貸倒引当金		200		10				210
備品減価償却累計額		3,000		3,000				6,000
資本金		15,000						15,000
繰越利益剰余金		3,000						3,000
売上		20,000				20,000		
仕入	14,600		3,000	2,000	15,600			
保険料	2,400			1,200	1,200			
	47,000	47,000						
貸倒引当金繰入			10		10			
減価償却費			3,000		3,000			
前払保険料			1,200					1,200
当期純利益					190			190
			9,210	9,210	20,000	20,000	30,200	30,200

一致

一致

一致

差額で求める!

- ・なお、このような一般的な問題以外には、精算表が完成した状態で一部が空欄となっているのを埋めていく「推定問題」が問われることもある。